名古屋市障害福祉部 赤井障害福祉部長が語る !!!

赤井名古屋市障害福祉部長

今回、日頃名古屋市腎友会と関わりがある名古屋市健康福祉局障害福祉部障害福祉部長の赤井久夫氏にお話を伺いました。

「私の障害福祉との初めての関わりは、今から20数年前に、知的障害児施設に配属されたときです。そこでの経験は、障害福祉についての自身の考え方の出発点ともいえます。

平成15年に再び障害福祉行政に携わることになりましたが、今度は知的障害に留まらず、身体障害、精神障害等全般にわたる施策が対象です。身体障害、知的障害、精神障害と、種別・障害の程度により、必要とされる施策が異なり、それを、どう実施していくかが大事です。

平成18年に障害者自立支援法が施行されました。この制度については、利用者負担の問題など数々の批判が寄せられています。しかし、３障害同一のサービス、就労の促進、地域生活への移行などその目指すところは評価するものです。法が施行され3年経過しましたが、この3年間でホームヘルプサービスなど利用量は大きく伸びています。 民主党が政権を担うことになり、マニフェストにうたわれた「障害者自立支援法は廃止し、新たに障がい者総合福祉法（仮称）を制定」に向けて動き出そうとしていますが、より良い制度となるよう期待します。

名古屋市では、平成25年までの長期計画として「名古屋市障害者基本計画」を定めていますが、「障害のある人もない人もお互いに人権を認め合い、共に生きる社会」を目標としています。こうした社会の実現に向けて、今後も引き続き名古屋市腎友会の皆様のご協力をよろしくお願いします。」

NPO名古屋市腎友会活動報告

陳情・署名活動報告

陳情・署名・募金活動にご協力頂きありがとうございました。

平成21年度ＮＯＰ法人名古屋市腎友会による陳情署名活動がおこなわれた。このたび7月～8月にかけて名古屋市内の病院患者会の協力により、陳情署名活動が行われました。

陳情書は、11月上旬に名古屋市に提出する予定です。結果25病院 、署名人数は5千3百余名（9/28現在）。今回協力していただいた患者会および協力していただいた方々に心から御礼を申し上げます。

民主党、自民党、公明党 3党合同議員懇談会開催

名古屋市議会議事堂4階第4委員会室にて開催した懇談会の状況

6月19日（金）名古屋市議会議員超党派による合同議員懇談会（参加議員22名）が開催された。

現在、送迎バスは、1台年間1,000万円近くかかっており、これらが病院経営の負担になり、送迎バスを止めてしまう病院もある。現状のタクシーチケット枚数（現在は年間120枚補助、しかし、現実には年間156回通院するので、往復312枚必要。「せめて片道分156枚にしてほしい」と要望した。

タクシーチケット増加陳情に対する 市財政福祉委員会開催

8月24日（月）市議事堂四階第2委員会室で午前10時～12時までの2時間に渡り、討議があった。総務からタクシーチケットの現状について説明。社会参加の位置づけで平成17年7月に96枚から120枚に増加した経緯があり、今年から精神一級にも96枚支給を説明、健康福祉局大橋障害企画課長より3病院のソーシャルワーカーに通院の現状を聞く・送迎バス・自家用車・タクシー・公共交通の利用状況を報告、他のバランスとの兼ね合い、30％予算削減から現状維持が精一杯と報告。

議員より助成の国や県からの補助及び利用者の現状、他政令都市との比較や予算面について質問があった。市議の質問に行政の回答はタクシーチケットは政令都市では最高水準であると回答、他に予算や利用状況についても回答があった。

今後の活動予定と障害福祉政策について

10月4日(日)全国一斉臓器移植キャンペーンを名古屋駅・名鉄メルサ、金山駅周辺、地下鉄平針駅・今池、東山動植物園前他愛知県内19箇所で開催された。いよいよ私たち患者会にとって、きびしい試練が待ち受けています。名古屋市がこのたび2010年度予算で人件費以外で238億円を削減する方針を2日の市議会財政福祉委員会で明らかにした。（毎日新聞9月3日(木)朝刊）削減検討対象には高齢者医療を無料にする福祉給付金や私たちと関係がある障害者医療費助成、重度障害者タクシー料金助成などが含まれいます。

万が一の場合、陳情や要望が必要かもしれません。その時はぜひご協力をお願いします。是非今一度先輩たちが勝ち取った医療助成等の運動の成果を噛みしめて、今後の運動を進めて行きたいと思います。

（事務局　高橋　元治）